

市民の森のこれから

森の生態系

植物たちは太陽のエネルギーを利用して、無機物である水(H_2O)と二酸化炭素(CO_2)から有機物(糖)と酸素(O_2)をつくりだします。このしくみは皆さんご存知の光合成です。

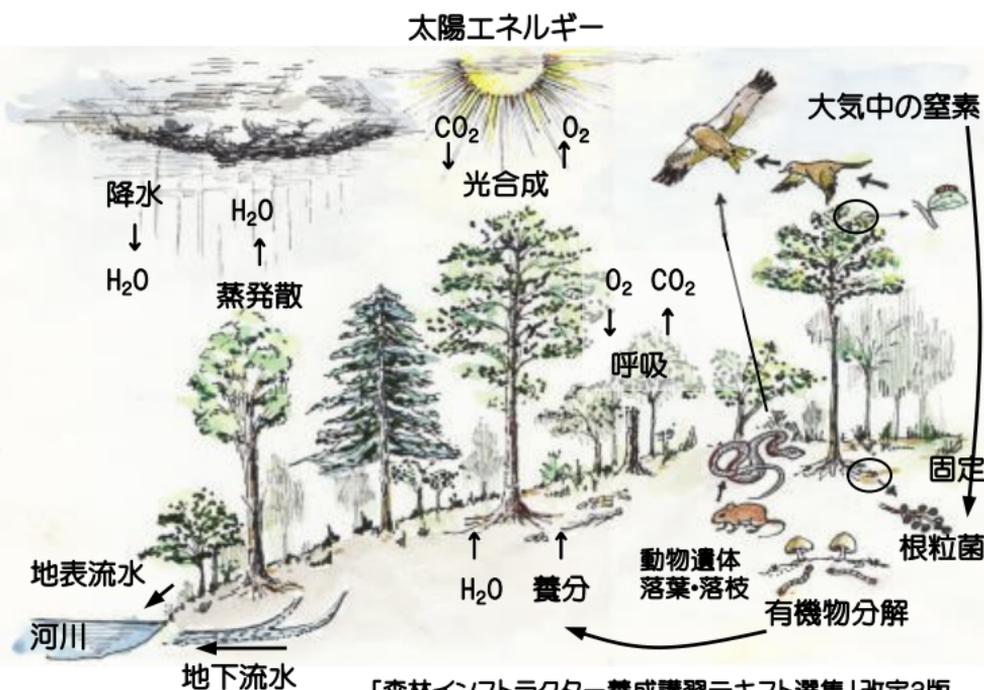
さらに植物は根から地中の無機物(窒素などの養分元素)を取り入れ、複雑な蛋白質や脂質などの有機物を合成します。

生物界で太陽エネルギーを利用して無機物から有機物を作れるのは植物だけです。そのため、有機物が必要な動物は植物および植物を食べて育った動物を食べることによって、生きることができるわけです。

そして植物の落葉、落枝、動物の排泄物や動物遺体は、土の中の小動物や菌類などの微生物により有機物が無機物に分解され、再び利用されることとなります。

このように植物、動物、微生物など生物全体で物質やエネルギーの循環を支えています。

どれ一つ欠けてはならない大事な要素であり、それらのバランスの上に森の豊かさが保持されていきます。



「森林インストラクター養成講習テキスト選集」改定3版
「森林生態系の模式図(藤森、2006)」を基に作図

希少野生動植物

200ヘクタールのこの森には、沢があり、池があり、日当たりのよい場所、北斜面の暗い場所、いろいろな環境があります。この環境の多様性ゆえに、それぞれに適した多くの生物たちが生息しているはずで

す。現在までの観察で、長野県が絶滅の危機から保護するために長野県希少野生動植物保護条例で規定した「指定希少野生植物」の中の2種も確認しています。

生物の絶滅する要因はいろいろ挙げられていますが、その要因の中に人間による環境の破壊、人間による採取が入っているのは残念なことです。この森の動植物をみんなで守り、次世代に引き継いでいきましょう。

外来生物

本来そこにいなかった生物が人の手で持ち込まれると、持ち込まれた生物は、もともといた生物の天敵となったり、生息場所を奪ったりすることで、その生物たちの生態バランスが崩れていきます。

最近の例では、アライグマやオオハンゴンソウなどが問題になっています。

この森がこの森らしい個性を維持するため、この地域にない新たな種の持ち込みはやめましょう。

これからの取り組み

市民の森では、これまでに南側を中心に整備と活用を進めてきましたが、今後は未利用となっている北側を含めた市民の森全体のエリア別の活用方法の検討をしていきます。企業への環境保全活動エリアの提供や間伐材の有効利用など知名度、利用価値をさらに高め、より多くの方に利用していただくための仕組みを考えていきます。

公益的な役割を持つ里山・里地を後世に伝えていくため、今後も市民の森は里山づくりのモデルとなり、情報発信ができる里山を目指していきます。

茅野市生活環境課

